

飯村隆彦 ビデオアート、フィルム、パフォーマンス作品のデジタル化と修復事業

特定非営利活動法人 ビデオアートセンター東京

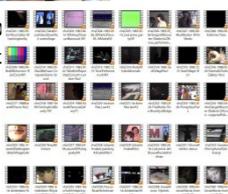
【事業概要】

実験映画、ビデオアート、メディアアート分野の草分け的存在である飯村隆彦(1937年-2022年)のフィルム作品、ビデオテープ作品のデジタル化及びアーカイブ作業を行う。ユネスコが警鐘を鳴らしているように、磁気カセットテープの磁性体の劣化と再生ヘッドの生産停止により、今後再生が不可能になることが危惧されており、速やかなダビングとデジタル化が急がれる。本事業は飯村隆彦が残した8mmフィルム作品とカセットテープをデジタルデータに変換し、リスト化を行った上で必要なものは保存修復を施し、その芸術的功績を次世代に残し、また国内のメディアアートの貴重な資料としてアーカイブ化を試みた。

アーカイブ対象テープの一部
(Hi8ビデオカセット・上/miniDVビデオカセット・下)



切断したHi8テープ修復の様子(上)とデジタル化した動画ファイルの様子(右)



【体制／手法】

テープ作品約550本(VHS形式90本、VHS-c形式66本、Hi8形式88本、miniDV形式220本)をデジタル変換して、動画ファイルとして取り込んだ。フィルム作品について貴重なものを優先的に選定し、テレシネと光学取り込みによってデジタル映像のマスターを作成した。方法としてテープやフィルムの切断、カビやフィルム送りの欠損など物理的なダメージを修復し、再生・上映を可能にした上で、複数のハードディスクに複数の動画形式に変換した上で保管した。

リストを作成した上で、将来的な展示や再現展に役立つ指示書としてアーカイブしました。オンラインと冊子などを通じてアーカイブの一般的に閲覧可能な状態を作った。

【成果・公開方法】

飯村が1980年代より日常的に撮り続けてきたビデオカセットの中から、国内外のアーティストとの交友録や対談の様子、作品やプロジェクト、展覧会の様子をうかがい知る資料的価値の高い映像が発見された。これらの資料のリストをオンラインにて一般公開し、今後の展覧会や研究に役立てたいと考える。これらの中から今後海外での美術展での約12作品の公開が行われる予定。またアーカイブ化された作品一覧をWEB上(<https://vctokyo.wixsite.com/info/iimura-archive>)にて閲覧可能な状態にした。



【今後の課題】

今回対象としたVHSやHi8、miniDV形式の他、いくつか残された8mmフィルムと16mmのフィルム、また飯村が撮影した写真フィルムや紙焼きの記録写真、作品に関する手記やスケッチなどのデジタル化と整理が必要だと考えられる。今後はこれらの作業を行っていきたい。

【略歴】飯村 隆彦(1937年-2022年)

哲学や思想的なアプローチからフィルムやビデオ、パフォーマンスを行い、戦後のアート史と映画史の交点ともいえる新しい表現分野を開拓した。国内のみならずアメリカ合衆国、フランス、ドイツなど国際的に活動が知られる。著書に『芸術と非芸術の間』(三一書房、1970)、『パリ東京映画日記』(風の薔薇社、1985)、『映像実験のために』(青土社、1986)、『映像アートの原点 1960年代』(水声社、2016)など。第19回文化庁メディア芸術祭(2015年)の功労賞を受賞。2023年にはベルリン国際映画祭と東京都写真美術館で追悼上映、MORI YU GALLERYで回顧展が開催された。

